

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Characteristics of Postpartum Japanese Mothers Who Were Nonrespondents to the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: エコチル調査における産後時点の質問票が未返送となった母親の特徴

ユニットセンター(UC)等名: 富山UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Pediatrics and Congenital Disorders

年: 2020 月: 8 巻: 6 頁: 1

筆頭著者名: 城川 美佳

所属UC名: 富山UC

目的: 出生コホート調査において配布・回収を行った出産後1か月時の質問票の返送/未返送に係る要因を明らかにする。

方法: 出生コホート調査であるエコチル調査に参加同意した母親のうち、死産・流産・多胎出産であったものを除いた96860名を対象とした。対象者の社会経済的要因、健康に関連する行動、既往歴、妊娠中・出産時の健康状態の詳細を得た。また、パートナーが本調査に参加し、父親の背景因子を調べる質問票に回答したか否かも変数とした。これらと出産後1か月時の質問票の返送の関連を多変量ロジスティック回帰分析によって検討した。

結果: 未返送と関係したのは、母親の年齢、社会経済的要因、健康に関連する行動、ぜんそくの既往、妊娠中の精神的苦痛、出生児の健康状態が関係した。また、パートナーが本研究に参加しないあるいは参加したけど自身に課された質問票回答に協力しない場合、母親の未返送が高まった。

考察:(研究の限界を含める) 本研究では、パートナーのエコチル調査への参加協力の態度が、母親の質問票返送に係る重要な要因であることが明らかになった。妊娠中・出産後のパートナーの協力が母親のメンタルヘルスにより影響を与えることは知られていたが、質問票返送にも影響を与えることがわかった。本研究の限界として、配布と回収の方法がデータに紐づいていないこと、日本に特有の里帰り出産のため回収ができなかった可能性があること、パートナーの全員をリクルートできなかったことがあげられる。

結論: 質問票の返送には回答者である参加児の母親の興味と理解の度合いが関連した。今後、未返送を防ぐには参加児の母親とそのパートナーに対してのケアを行うことを考慮すべきである。